



サントリー文化財団 2022年度 研究助成「学問の未来を拓く」決定

公益財団法人サントリー文化財団（理事長 鳥井信吾）は、2022年度研究助成「学問の未来を拓く」として、応募総数375件のうち、30件を助成対象に決定しました。助成総額は3,000万円です。

本助成は、人文学、社会科学の分野において、従来の「研究」や「学問」を問い直す知的冒険に満ちたグループ研究に対して助成を行うものです。

本年度は、旧ソ連諸国における冷戦後の民主化に関する法秩序の変容について、現地で実務・研究経験のある多様なメンバーらで把握を試みる「ロシア『勢力圏』から読み解くポスト・ソビエト・ユーラシアの民主化に関する法変容」（代表：岩手県立大学総合政策学部准教授 桑原尚子氏）、SDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」の達成に進化人類学的視点から寄与することを目的に、排泄行動や衛生観念の進化過程を明らかにしようとする「排泄の自然誌を編む：ヒト・チンパンジー・ニホンザルの排泄行動の比較から始めるSDGs」（信州大学理学部助教 松本卓也氏）など、新たな見地の提供が期待される冒険的な試みを多数採択しました。

* 選考委員

荒木 浩氏（国際日本文化研究センター教授）

隠岐さや香氏（東京大学教授）

金水 敏氏（放送大学大阪学習センター所長、特任教授）

酒井 隆史氏（大阪公立大学教授）

山室 信一氏（京都大学名誉教授）

* サントリー文化財団研究助成（公募）について

当財団は、1979年の設立以来、人文学、社会科学の分野において、広く社会と文化を考えるための国際的、学際的な研究活動に対し助成を行ってきました。

現在は、グループ研究助成「学問の未来を拓く」、個人研究助成「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」の2つのプログラムを設けており、それらの成果は論文発表・図書出版などで広く内外に発表されています。

*この件に関するお問い合わせ先

公益財団法人サントリー文化財団

研究助成「学問の未来を拓く」係

TEL 06-6342-6221 FAX 06-6342-6220

ホームページ <https://www.suntory.co.jp/sfnd/>

2022年度研究助成「学問の未来を拓く」 助成先一覧

No	研究テーマ	代表者
1	「農民芸術」の現代的解釈に基づく創造的な学びのコミュニティが地域にもたらす影響に関する比較研究	群馬大学共同教育学部 准教授 市川 寛也
2	「趣味」の昭和史の構築 — シリアスレジャーの観点による生涯学習論の刷新に向けて —	聖路加国際大学大学院看護学研究科 准教授 歌川 光一
3	権威主義に対するデジタル化による内外的影響 — デジタル権威主義論再考 —	愛知学院大学文学部 講師 大澤 傑
4	日本の大衆文化におけるヨーロッパ中世主義の受容と展開	東京都立大学人文社会学部 准教授 大貫 俊夫
5	「コモンズ」としてのクラフトビール — 中世グルートビール再現醸造を通じた「発酵社会学」構築の試み	静岡大学人文社会科学部 教授 大原 志麻
6	東シナ海域における「国境離島」の比較研究	早稲田大学高等学院 教諭 柿沼 亮介
7	わが国女性政治家の視覚的・聴覚的印象をめぐる総合的研究	東京大学大学院総合文化研究科 教授 鹿毛 利枝子
8	東南アジアにおける民主主義の後退	慶應義塾大学法学部 教授 粕谷 祐子
9	中世末期ヨーロッパにおける「奏楽天使」壁画についての学際的研究	日本学術振興会 特別研究員C P D (受入機関：國學院大學文学部) 勝谷 祐子
10	三都における戦後占領と文化冷戦の心象地図の作成 — 記憶の地層を掘り起こし可視化する試み	立教大学文学部 特任教授 川崎 賢子
11	S M研究：支配と暴力をめぐる欲望の歴史・文化・実践	福岡女子大学国際文理学部 講師 河原 梓水

12	F R E E 無料都市／自由時間	一級建築士事務所 まちむらスタジオ ディレクター 木村 浩之
13	ロシア「勢力圏」から読み解くポスト・ソビエト・ユーラシアの民主化に関する法変容	岩手県立大学総合政策学部 准教授 桑原 尚子
14	人中心の子育ち都市づくりに向けて縦割り社会システムを問い直す：保育施設はなぜNIMBYになってしまったか	東京大学先端科学技術研究センター 特任講師 後藤 智香子
15	散歩学の体系化 — 都市における歩く文化の復権にむけた試み —	滋賀大学環境総合研究センター 客員研究員 近藤 紀章
16	「廃棄」から捉え直す中近世ヨーロッパ水環境史	久留米大学経済学部 専任講師 齊藤 豪大
17	戦前日本における体操の「動作」に関する歴史実証研究	北海道大学大学院教育学研究院 准教授 崎田 嘉寛
18	〈視聴者〉の系譜：総合的人間科学としてのテレビジョン	ダラム大学現代言語文化学部 助教授 ション ハンスン
19	ウィズコロナ状況における祭礼・民俗芸能の継承に向けた戦術（tactics）とその可能性	法政大学社会学部 教授 武田 俊輔
20	生環境構築史学（Habitat Building History）構築と基盤研究：日英併記による交流・発信 広報媒体の実践	早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授 中谷 礼仁
21	囲繞施設のデジタル三次元計測による縄文時代観の再考	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 根岸 洋
22	ナレズシはいかに「洗練化」したのか — 乳酸菌分析にもとづく環境史へのアプローチ	滋賀県立琵琶湖博物館研究部 専門学芸員 橋本 道範
23	近代日本知識人の「母」 — 加藤周一・丸山眞男・鶴見俊輔の母たち	立命館大学衣笠総合研究機構加藤周一現代思想研究センター 研究員 半田 侑子

24	タイBLドラマ ―― 日本における逆輸入文化に関する研究	京都産業大学現代社会学部 教授 ボンサピタックサンティ ピヤ
25	政治学はインフォーマルな政治を扱うことができるか	宮崎大学キャリアマネジメント推進機構 テニュアトラック推進室 テニュアトラック講師 松尾 隆佑
26	排泄の自然誌を編む：ヒト・チンパンジー・ニホンザルの排泄行動の比較から始めるSDGs	信州大学理学部 助教 松本 卓也
27	「伝統素材・技法×3D技術」による民族絵画への触覚的アプローチ	筑波大学芸術系 助教 宮坂 慎司
28	戦後日本における「河内のなもの」と「船場のなもの」に関するメディア文化研究	神戸市外国語大学外国語学部 准教授 山本 昭宏
29	農林漁業地域における女性組織・ネットワークの運動転回に関する研究	三重大学人文学部 講師 吉村 真衣
30	英語圏ファン研究の批判的受容と日本・東アジアからの応答	筑波大学人文社会系 助教 渡部 宏樹

(敬称略、肩書きは申請当時、氏名50音順)

以 上